

もらいました。

水が流れるように勾配こうばいをつけるのには、昼は竹竿ざおを、夜はちようちんを使いました。同じ長さにして、等しい間隔かんかくに立てたのを、遠くからながめて高低こうていをはかりました。せまくてできない所では、竹を半分に割って水を流してみました。

こうして約二か月、まだ予定通りに進まないうちに冬がやってきました。みぞれが二、三回降ったと思ったら、翌日は白い雪が山をおおってしまいました。工事は、雪どけまで中止するしかありませんでした。

正月が過ぎて、だんだん日の長くなつたのがわかると、豊助は毎日空をながめて雪どけを待っていました。

三月のある日、八田宗吉はつた そうきちから豊助の所に急ぎの使いがやってきて、暖かさが続いたために雪どけが早まり、用水路に水があふれて滝沢山たきざわ やまの土手をくずしは